

## 令和7年度鳥取県図書館協会 研修会報告



講演中の小林 隆志 氏

岩美町中央公民館 次長 松本 邦裕

令和7年6月25日(水)に、前県立図書館長であり、現在は県立図書館情報相談課でご活躍されている小林隆志課長補佐をお招きし、「図書館勤務 26年目になって考えたこと」を演題にご講演いただきました。長年ライブラリアンとして実践されてきたことや図書館への思いを交え

たお話しを聞き、私たち図書館に勤務する職員が利用者に対する姿勢を改めて考えることが出来ま

した。小林さんからは、「図書館ってどんなところ？」との問いに、図書館とは、ただ本を借りるところだけでなく、利用者によって色々なことが生み出されたり、色々な目的で利用されることから「夢をかなえる図書館」、また様々な問題を抱え困っている人たちに必要な情報を提供できる「社会のセーフティネットとしての図書館」の二つの言葉で図書館を説明され、そのような図書館となるためには、図書館は何ができるのかを常に考えていかなければならないとお話しされました。また、急激な人口減少や財政の収縮などにより公共サービスの維持が難しくなるなかで、大切なのは利用者が図書館資料や空間を活用してクリエイティブな活動が展開できる環境が維持されることであり、そのためには住民との協働を模索していく必要があるとお話しされました。小林さんの次の夢は「全ての自治体に図書館応援団が誕生すること」とのこと。「住民と図書館が良くなるためには」という小林さんの熱い思いを感じました。

## 第30回鳥取県図書館大会 報告

大会テーマ:「いま改めて考える『読書』の未来と可能性」

令和7年8月18日(月)米子コンベンションセンターで第30回鳥取県図書館大会が開催されました。県内外から計325名(会場:250名、オンライン:75名)が参加し、これから「読書」に求められる役割について考えました。



講演中の飯田 一史氏

## ◆ 基調講演

演題:「若者の読書離れは本当なのか？」

講師:飯田 一史 氏

(出版ジャーナリスト・ライター)

データから見ると、雑誌については読書冊数減、不読率増の傾向が続いていますが、書籍不読率は、2000年以降減ってきています。また、書籍読書量については、小中学生で過去最高、高校生や大人では横ばいで、「本離れ」とは言えません。また、スマホの利用時間と読書量とには、相関はないという調査結果があります。「本を読む」という前に、「読書」「読解」観の更新が必要で、マンガ、音声、電子、ウェブも含め、人間の多様性に合わせた多様な読書、資料提供が必要になってきます。PISA（国際的な学習到達度に関する調査）等では「読解力」は実用&アウトプットを重視しており、図書館やウェブを活用した調べ物、発表も「読書」活動と言えます。また、10代に人気のある内容は普遍的ではありますが、彼らは社会の価値観には敏感に反応しています。

#### ◆ 特別報告・事例発表

「読書と人をつなぎ・つながる取組最前線～子どもの読書環境を支える現場はいま～」

##### ■ 特別報告：鳥取県子どもの読書活動推進ビジョン（第5次計画）

報告者：福本 哲也 氏（鳥取県教育委員会事務局社会教育課 課長）

##### ■ 事例発表1：えほんだいすき！～絵本を通した親子のふれあいと豊かな心と言葉の育成～

発表者：竹本 幸子 氏（北条町立北条こども園 園長）

##### ■ 事例発表2：いろいろな楽しさを味わえる学校図書館へと進化し続け…

発表者：砂流 誠吾 氏（日野町立日野学園 校長）

##### ■ 事例発表3：BAUM 完成から現在まで

発表者：高山 紫織 氏（学校法人翔英学園米子北高等学校 学校司書）

鳥取県子どもの読書活動推進ビジョン（第5次計画）は、「すべての子どもが読書に親しみ、心豊かな経験を通して生きる力をはぐくむ」を基本理念として策定されていること等について報告されました。北条こども園からは、絵本を身近に感じ、絵本に親子で親しんでもらえるような取り組みについて、日野学園からは、環境を生かした学校図書館の3つのセンター機能の活用について、米子北高校からは、学校の中心に「森」をつくるというコンセプトのもと誕生した学校図書館「BAUM」の取り組みについて紹介されました。



事例発表の様子

会場からは、学校図書館から見た公共図書館に求められる支援、学校図書館活用計画の推進方法、読み物を読む子どもを増やすための方策などについて質問があり、議論を深めました。

#### ◆ 分科会1 「発進！移動図書館車」

■ 発表者：中島 泉 氏（鳥取市立中央図書館 館長）

小椋 智子 氏（町立みささ図書館 副館長）

熊沢 菜穂子 氏（米子市立図書館 課長補佐）

永井 美里 氏（大山町立図書館 館長補佐）



第1分科会の発表風景

誰でもどこでも図書館と同じサービスが利用できる移動図書館車(BM)。その事業を行っている公共図書館の活動についてお話いただきました。5台のBMを所有する鳥取市立中央図書館は、館外のイベント参加による事業展開やコンビニでの受取(一部店舗)について紹介されました。町立みささ図書館は、病院や福祉施設の巡回の様子、美術館とのタイアップイベントについてお話されました。昭和41年からのBMの歴史を持つ米子市立図書館は、現在のBMを自

治連合会の寄付やふるさと納税によって購入したことをお話されました。大山町立図書館は、車両を小型化したことで、作業負担が軽減したことやレファレンスの多さが貸出冊数の増加につながっているのではと話されました。

「取り組みの成果を直接感じることができ、地域の方との交流は貴重な情報源になるので、続けていきたい」としながらも、車両の老朽化や担当職員の休暇の取りづらさ、周知のための広報活動などの課題を挙げられ、会は締めくくられました。

#### ◆ 分科会2 「電子書籍の未来～読書バリアフリー、教育現場編～」

■発表者：西田 和之氏（株式会社紀伊國屋書店デジタル・流通事業本部デジタル情報営業部長）

金子 哲弥氏（株式会社図書館流通センター電子図書館推進部長）

瀬尾 昌也氏（株式会社メディアドゥ IP・ソリューション事業本部 出版ソリューション推進部 電子図書館推進課シニアマネージャー）

電子書籍による読書バリアフリーの取り組みと教育現場での現状を電子書籍事業者3名の方に報告していただきました。紀伊國屋書店の KinoDen は、オーディオブックを導入することでプロのナレーターの声で作品を楽しむことができます。また、専門書や学習書が豊富にあるため、調べ学習や探求学習に役立てられています。図書館流通センターの LibrariE&TRC-DL は、利用支援サイトの提供により、視覚障がい者が独力で電子書籍を操作することができます。また、朝読書や家読書に最適な児童書が多く、児童の読書習慣に繋がっています。メディアドゥの OverDrive は、外国語図書が数多くあるため、外国語が母語の児童の利用をはじめ、多読用、英語の授業の副読本としても利用されています。



第2分科会の発表者の皆さん

質疑応答では、今後の課題について話されました。読書バリアフリーについては、操作性の向上や視覚障がい者以外の利用者を増やすことを、教育現場では学校間や先生間の利用格差をなくすため、現場の先生へ電子書籍の魅力を伝えていく重要性をあげられました。

#### ◆ 分科会3 「対談：大人も本を読んでいないといわれるけれど…。」

■対談者：奈良 敏行 氏（定有堂書店 店主）

三砂 慶明 氏（読書室 主宰）



第3分科会の対談の様子

「私は話ができないが、本があれば話ができる」と言う奈良氏。お二人のおすすめの本を囲みながらの対談となりました。

奈良氏は「大人にとっての読書とは」と問われると、「大人の読書に結論はいらない。自身の思想の再構築である」などと話されました。更に「こどもの読書は正しく理解することが重要であり、良い指導者に出会えるかどうか」「若者は初めから膨大なものに吞まれないよう土台づくりが大切」と語られました。それを受け三砂氏は、「土台となる本は人によって異なるが、いかに出会って土台とするかが大切」と語られました。

このほかにも本やフリップボードを手にし、読書会のような雰囲気様々なお話をしていただきました。三砂氏が図書館について「そこに行けば、探したかったものではなく出会ったものに出会え

る」と表現されたのも印象的でした。どんな話題でも盛り上がる様子は、互いをリスペクトしあうお二人の関係性が伝わってくるようでした。

#### ◆ 分科会4 NPO 本の学校・特別分科会

「ニジノ絵本屋の物語～本屋さんで、絵本の出版社で、絵本パフォーマー～」

■講師:いしい あや 氏(ニジノ絵本屋 代表)

第4分科会は、NPO 本の学校文化祭2025 in YONAGO として、ニジノ絵本屋代表・いしいあや氏のゲストークと NPO 本の学校 柴野京子理事との対談を行いました。ゲストークでは 1.5 坪の小さな絵本屋からスタートしたいしい氏が、国内外の様々な場所でのたくさんの人との出会いの中で、出版社・芸能事務所・デザインと3つの仕事が存在する不思議な絵本屋を作り上げたエピソードをお話いただきました。色々な失敗や苦難をものともしない明るい人柄と軽妙なトークに、会場の参加者は一瞬でいしい氏の魅力に引き込まれました。対談コーナーでは、さらに踏み込んだ質問に「そうだったかもー」と笑顔で答えるいしい氏。日本だけでなく世界中で絵本とお客様、作り手、パフォーマーをつなげ、絵本の世界を広げていくことが決して偶然や簡単なことではないことがわかるエピソードの数々でした。最後に、いしい氏と親交がある特別ゲスト奥田さやかさんによる絵本パフォーマンスに、ニジノ絵本屋が作る絵本ワールドを味わいました。



第4分科会で講演中の いしい氏

#### ◆分科会5 「図書館応援団大交流会 図書館の活動に住民が関わることで生まれるものとは？」

■参加者:県内5団体18名+個人2名(20名)

図書館友の会・米子(米子市)、さかいみなと図書館応援団(境港市)、ちえの森応援隊(智頭町)、江府町図書館友の会(江府町)、日野町図書館友の会(日野町)、南部町図書館友の会なんぶらり～(南部町)



ワールド・カフェ方式での交流会

今年は、「ワールドカフェ」という形で交流会を行いました。これは、結論を出すのではなく、少人数で自由に意見を交換し情報を共有する方法です。各団体の簡単な自己紹介を行った後、4～5人ずつ4つのグループに分かれ、前・後半の各30分ずつ、メンバーを入れ替えて意見を交わしました。地域や学校との関わり、社協や青年団など他団体との連携、居場所としての取り組み、図書館の魅力発信など、図書館応援団の関わりで広がった事例をお互いに紹介し合いながら活発な交流が行われました。多様な経験値が集結することで多角的なアイデアが生まれる事や、活動費の確保、会員同士の効率的な連絡方法や次世代への継承問題といったリアルな課題、応援団同士の協力への動きなど、大変盛り上がりました。大きな模造紙にメモを書きながら、前後半でメンバーを入れ替えたことも話題の広がりにつながりました。最後に1グループ1人ずつ感想を述べて終会となりました。

## 県内図書館視察の報告

### 鳥取県立公文書館

鳥取県立図書館 支援協力課長 高橋 真太郎

県内図書館視察の最初は、鳥取県立図書館と同じ建物に入る鳥取県立公文書館へ。

閲覧室に飾られた歴代知事の写真パネル(歴史的人物の御子息もおられました)や展示された県内の歴史的な写真が目を引きます。県の公文書はもとより、各都道府県史や統計資料も所蔵されていると説明を受けました。

県によって撮影された記録写真も数多くデータで所有しており、希望される方には CD-ROM 代のみの負担で提供されています。

スリッパに履き替え足を踏み入れた地下書庫は圧巻の一言。冊子やマイクロフィルム、写真など様々な形態の資料が整然と並べられています。

紙の酸化防止や青焼き図面の劣化対策、ビデオテープの媒体変換など資料を後世に伝えていく取組には図書館に通じるものが多く、説明を聞きながら多くのことを学ぶことができました。



歴史的に貴重な資料も見せていただいた

### 鳥取城北高等学校

ちえの森ちづ図書館 副主幹 葉狩 麻早子

2019年に校舎が新しくなり、学校図書館は生徒さんの利用しやすい玄関の近くに配置されています。また、部活などで帰宅が遅くなる生徒さんが、遅い時間でも図書館が利用できるようにと、午後7時30分まで開館しています。

館内の本の展示や装飾は限られた予算の中、「できることにはお金をかけないでやってみる」をモットーに司書の加藤先生が工夫されています。例えば、ブックスタンドは段ボールで作られたり、お菓子の箱などを館内の装飾に使われたりと、身近な物をうまく活用して本が手に取りやすく、明るい雰囲気図書館となっています。

生徒さんにとって居心地の良い図書館になるようにと、アイデアを活かし運営されている点を参考にしたいと思いました。



魅せ方のアイデアに興味津々

## 鳥取県立鳥取聾学校

わかさ生涯学習情報館 館長 山本 勸次郎

鳥取県立鳥取聾学校の図書館を訪問しました。聴覚に障がいのある幼児・児童・生徒 19名の皆さんが幼稚部から高等部まで一貫した教育を受けておられます。

司書の方に心がけていることをお聞きしたところ、視覚的に分かりやすい掲示・配置を心がけていると話されていました。書架は、幼児・児童が本を選びやすいように低いものを設置し、表紙が見えるように展示するなど視覚を意識した様々な工夫がされています。

また、聴覚障がい、手話に関する書籍の収集、充実に努められており、読書バリアフリーにも気を配られています。

視覚を重視されている効果もあるのか、色彩豊かな図書館に感じられました。



随所に凝らされた工夫を見つけて

## 八頭町立八東小学校

八頭町立図書館 館長 田中 義之

八頭町立八東小学校「かしの杜図書館」を訪問しました。全校生徒101名の子供たちが気軽に立ち寄れる図書館を目指し、読書・学習・情報の機能を柱にした教育活動をされています。

図書委員会の児童が、ポップの作成や、運動会新聞、発表会で配付するしおり作成など、積極的に活動されています。また、朝の読書や週末読書推進、学習での図書館活用にも地道に取り組まれていました。

学校の隣には、八頭町立八東図書館があり、郷土学習に必要な資料をすぐに取り寄せられたり、全校児童で出かけたりできるメリットがあるそうです。

読書ファイル、情報カード、思考ツールなどを活用し記録に残すなど、学習に生かせる図書館を目標に活動されていることが伝わってくると同時に、親しみやすい図書館だと感じました。



様々な取組の紹介に耳を傾けて

# 令和8年度 鳥取県図書館協会 研修会

## 学校図書館が 美しくなければならない理由

図書館・読書に関わる関係者の研鑽、県内図書館の振興と読書活動の推進を目的として、研修会を開催します。

本年度は、学校法人翔英学園理事長 中ノ森 寿昭 氏を講師にお迎えし、「学校の中心に森をつくる！」を基本コンセプトに整備された米子北高等学校独自の新しい図書館「BAUM(バウム)」と、その取組について伺います。

※学校法人翔英学園…米子北高等学校、米子北斗中学校・高等学校、みずほ幼稚園、東みずほ幼稚園を運営する学校法人。

令和8年 **6月18日** (木) 午後3時から4時まで

開場 午後2時50分

※午後1時30分から2時50分までの間は、鳥取県図書館協会の総会を開催しています。研修会のみ参加の方は、総会が終了するまで会場外でお待ちください。



### 講師

学校法人翔英学園 理事長  
中ノ森 寿昭 氏

【プロフィール】

2014年6月

山陰合同銀行常務執行  
役員退任

2021年3月

学校法人翔英学園 理事長  
就任

会場

倉吉交流プラザ 視聴覚ホール

〔倉吉市駄経寺町 187-1〕

〔会場に関するお問合せ:0858-47-1181〕

対象

どなたでもご参加いただけます。

定員

80名

参加費

無料

申込

チラシ裏面の申込書に御記入の上、6月12日(金)  
までにお申し込みください。

### ◆申込先◆

鳥取県図書館協会 企画委員会 担当:秋久・竹本(湯梨浜町立図書館内)

電話:0858-48-6012 ファクシミリ:0858-32-2210

メールアドレス:ytosho@mail3.torichu.ne.jp

◆お問合せ◆鳥取県図書館協会事務局(鳥取県立図書館内)

担当:佐伯、高橋

TEL 0857-26-8155

## 令和8年度 鳥取県図書館協会 定期総会・研修会 参加申込書

【申込先】鳥取県図書館協会企画委員会(受付担当:湯梨浜町立図書館)

電話:0858-48-6012 FAX:0858-32-2210

メールアドレス:ytosho@mail3.torichu.ne.jp

**申込締切 令和8年6月12日(金)**

○研修会は、会員に関わらずどなたでも参加できます。応募者多数の場合は先着順となります。定員(80名)に達した場合はお断りの連絡をさせていただきます。

○研修当日の入会・会員継続手続きも可能です。受付にてお申し出ください。

| 所属・役職  | 氏 名   | 総会参加<br>(会員のみ<br>記入) | 研修会<br>参加 |
|--|-------|----------------------|-----------|
| (記入例)<br>〇〇〇〇図書館 館長<br>(電話連絡先 〇〇〇〇-△△-xxxx ) | 鳥取 花子 | ○                    | ○         |
| (電話連絡先 )                                     |       |                      |           |
| (電話連絡先 )                                     |       |                      |           |
| (電話連絡先 )                                     |       |                      |           |
| (電話連絡先 )                                     |       |                      |           |
| (電話連絡先 )                                     |       |                      |           |

※提出いただいた個人情報は、総会・研修会運営の目的にのみ利用し、個人情報保護関連法令に基づく個人情報の対象として保護します。

# 第31回 鳥取県図書館大会

## “〇〇”と図書館 ～図書館の明日を<sup>えが</sup>画く～

生活、仕事、学校、趣味の楽しみや居場所、私たちにとって、図書館はどのような場面が必要な存在なのでしょう。か。「〇〇」と図書館」というフレーズで始まる各プログラムへの参加を通じ、自分自身にとって、そして社会にとって、今後図書館がどういった存在であるべきなのかを参加者皆で考えます。

**日時** 令和8年7月30日(木) 10時～16時30分(受付9時30分～)

**会場** 岩美町中央公民館 いわみんホール、研修室1～5  
(住所: 岩美町浦富1038-6 電話: 0857-72-0510)

※駐車場には限りがありますので、公共交通機関の利用や乗り合わせでの来場にご協力ください。

**参加費** 鳥取県図書館協会員: 無料 会員外: 500円(当日入会可)

★要申込★

【会場参加】

定員 300名

【オンライン参加】

最大 300名

後日配信なし

個人視聴のみ

### 基調講演「あそび」と図書館 ～真庭市立図書館での挑戦と実験～ 10:15～11:45

講師: 西川 正 氏 (真庭市立中央図書館長・NPO法人ハンズオン埼玉副代表理事)



#### 【プロフィール】

学童保育所、出版社、NPO支援センター等を経て、2005年、ハンズオン埼玉を設立。「おとうさんのヤキモタイム」キャンペーンや「トークフォークダンス」などコミュニティを育むさまざまなプロジェクトを提案。まちづくりや子育て支援の研修等の講師やファシリテーターとして活動。元恵泉女子学園大学特任准教授。立教大学・大妻女子大学等で非常勤講師。著書に『あそびの生まれる時「お客様」時代の地域活動コーディネーション』(ころから)等。

### 事例発表「わたしたち」と図書館 ～図書館応援団の活動報告～ 13:15～14:45

鳥取県では、図書館の魅力化、活性化を目指して活動する「図書館応援団」が増えています。その想いや取組をご紹介します。図書館と利用者との関係性、公共施設としての図書館の今後のあるべき姿について考えます。

発表団体: ちえの森応援隊(智頭町) 日野町図書館友の会(日野町)

江府町図書館友の会(江府町) 南部町立図書館応援団なんぶらりー(南部町)

### 分科会 15:00～16:30

- 1 “コミュニティ”と図書館 ～新館整備後に見えてきたこと～  
発表者: 嘉賀 収司氏 (境港市市民図書館長)  
松本 邦裕氏 (岩美町中央公民館次長)  
角田 有希子氏 (南部町立図書館長)
- 2 “読書推進”と図書館 ～朝読書再考(最高)岐路に立つ取組の未来を展望する～  
発表者: 砂場 路子氏 (鳥取市立稲葉山小学校長)  
西口 美智子氏 (鳥取市立稲葉山小学校学校司書)  
村中 ひろみ氏 (鳥取市立気高中学校教頭)  
北村 正美氏 (鳥取市立気高中学校学校司書)  
宮本 知子氏 (鳥取県立岩美高等学校司書教諭)
- 3 【ワークショップ】“手作り絵本”と図書館 ～絵本を創る楽しみを味わおう ○・△・□から生まれる世界～  
講師: しまだ ようこ氏 (絵本作家)  
定員: 25名、材料費300円を当日お支払いいただきます。  
持ち物: スティックのり、ボンド、色鉛筆などの描画材を各自ご持参ください。
- 4 【NPO法人本の学校主催】“出版”と図書館 ～地域の記憶を残すために～  
講師: 南陀楼 綾繁氏 (ライター・編集者)  
意見交換コーディネーター: 柴野 京子氏 (NPO法人本の学校理事長・上智大学文学部新聞学科教授)

〈問合せ先〉 鳥取県図書館協会事務局 (鳥取県立図書館内)

電話: 0857-26-8155 / ファクシミリ: 0857-22-2996 / メール: toshokan@pref.tottori.lg.jp

主催: 鳥取県図書館協会 共催: NPO法人本の学校、鳥取県学校図書館協議会、鳥取県公共図書館協議会、鳥取県教育委員会  
後援: 鳥取県書店商業組合、公益社団法人日本図書館協会

